

令和7(2025)年 No.1318

8月1日

広報 いせはら

Public Relations Paper

ISEHARA

主な記事

2 3 いせはら掲示板

4 定額減税補足給付金(不足額給付)を支給します

80年目の空に 手をのばす

市では、戦争の記憶を風化させず次世代に継承するため、恒久平和に向けた取り組みを行っています。今年は事業の一環として、次代を担う子どもたちに鶴を折ってもらうことで、「平和」について考えてもらいました。戦後80年の節目の年に、今一度平和の尊さについて考えてみませんか。
☎市民協働課 ☎94-4714

戦後80年事業「平和のつどい」

恒久平和の実現を目指し「平和だからできること」をテーマに、平和のつどいを開催します。中学生平和作文の表彰式や被爆体験講話などが行われます。

と き 8月23日(土)午後1時～◇開場は15分前から

ところ 市民文化会館小ホール

平和を祈念するパネル展示

広島の高校生と被爆者との共同制作による「原爆の絵」や、市内の小学生が作成した折り鶴を用いた作品、中学生の平和作文などを展示します。また、被爆した当時の様子をVRゴーグルで疑似体験できます。

と き 8月22日(金)～24日(日)の午前10時～午後4時30分

ところ 市民文化会館展示室

次世代へ伝える平和ドキュメンタリー映像を公開しています

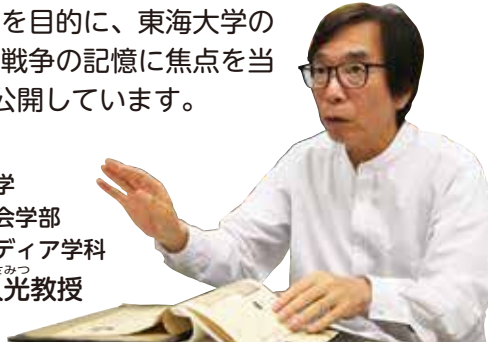
戦争の記憶を風化させることなく次世代へ伝えることを目的に、東海大学の水島研究室と協働し、市内各地の石碑や風景などに宿る戦争の記憶に焦点を当てた映像を制作しています。作品は市公式YouTubeで公開しています。

戦後80年を学ぶきっかけに

戦後80年が経過し、特にこの5年間で戦争を経験された人の多くは亡くなられ、ご存命でも自分の記憶として残っている人は少なくなりました。これまで戦争の話は、当事者の実体験に基づいた話に頼りすぎていた部分が多く、戦争未経験者は語る資格がないという空気がありました。そのため、戦後世代に語り伝える準備ができていないという現状が生まれてしまったと思います。

ただ、これまで語られてきた戦争の話は、戦争体験者一人一人が持っている当時の記憶や感情が色濃く出ており、フラットな視点で戦争を語り継ぐことを阻んでいたように感じます。

東海大学
文化社会学部
広報メディア学科
みずしまひさみつ
水島久光教授



戦争は、「語り伝えられるのではなく、自分で理解すること」が重要です。伊勢原市では、市の平和事業をはじめ、私たちが制作しているドキュメンタリー映像など、戦争を知るきっかけがたくさんあります。

この80年という節目は、戦争を学び直す好機です。自分なりの切り口を見つけ、戦争について考えてほしいと思います。